令和8年11月5日

〔管 内 経 済 情 勢 報 告〕

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項　　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨

（注）8年10月判断は、前回8年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項　　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある**	⇨
生産活動	一進一退の状況にある	**横ばいの状況にある**	⇨
雇用情勢	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	⇨
設備投資	8年度は前年度を上回る見込みとなっている	**8年度は前年度を上回る見込みとなっている**	⇨
企業収益	8年度は減益見込みとなっている	**8年度は減益見込みとなっている**	⇨
住宅建設	前年並みとなっている	**おおむね横ばいとなっている**	⇨
輸　出	前年を上回っている	**前年を上回っている**	⇨

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、円安や株高により高額商品の売上げが堅調に推移していることなどから、緩やかに持ち直しつつある。スーパー販売は、一部に節約志向がみられ、持ち直しのテンポが緩やかになっている。コンビニエンスストア販売は、一部で物価上昇の影響による客足の減少がみられ、回復のテンポが緩やかになっている。ドラッグストア販売は、インバウンド需要の減少などにより、回復のテンポが緩やかになっている。ホームセンター販売は、夏の季節性商品が好調だったことなどから、緩やかに持ち直しつつある。家電販売は、エアコンなどが好調であり、持ち直している。乗用車の新車登録届出台数は、一部に自然災害による影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。宿泊は、大阪・関西万博の反動減等により、弱含んでいる。

（主なヒアリング結果）

- 国内売上及び免税売上のいずれも前年を上回り、継続して好調である。国内売上は株高による富裕層の資産拡大、免税売上は円安による影響が大きく、ラグジュアリー商品を中心によく売れている。（百貨店）
- 一部の郊外店舗では、食料品等の普段使いで財布の紐が固くなっている印象があるものの、都市部の店舗では免税売上も国内売上も好調。外商販売も伸びている。（百貨店）
- 猛暑や降雨の影響もあり来店客数が減少していることに加え、消費者の節約志向から購入点数も少なくなっており、売上は減少傾向にある。（スーパー）
- 節約志向から弁当などの日配品が伸びない一方、アニメやゲームといった IP（知的財産）コンテンツ商品には強い引き合いがあり、消費者のメリハリ消費を強く感じる。（コンビニ）
- 中国人客が減少するなか、その減少分を単価の高い商品の販売などで補おうとしているが補い切れていない。（ドラッグストア）
- 2027 年度の省エネ基準厳格化を見据えた買い替え需要が底堅く、気温の上昇とも重なって、エアコン販売が好調だった。一部では、リビング用に加え、他の居室用分を含めた複数購入の動きもみられた。（家電量販店）
- 7 月下旬の令和 8 年熊本地震によりメーカーが生産を一時停止したことや、その他の風水害などによる交通網への影響を受けて、一部で納期に遅れが生じた。（自動車販売）
- 海外客については、渡航自粛による中国人客の減少を他地域からの集客では補い切れず減少している。国内客についても、昨年は万博を機に関西を旅行した者が、今年は関西以外を選んでいる傾向があり減少している。（宿泊）
- インバウンド客や万博需要を取り込んでいた繁華街の店舗では、売上げが大きく前年割れしており、万博の反動減を感じる。（飲食）

■ 生産活動 「横ばいの状況にある」

鉱工業指数（生産）でみると、生産用機械などが上昇しているものの、電気・情報通信機械などが低下しており、生産活動は横ばいの状況にある。

- 世界的にデータセンター需要が拡大しており、特に北米からの受注が好調。（生産用機械）
- 人手不足や人件費の上昇を背景に、物流施設等を自動化・効率化する製品需要が好調。（汎用機械）
- 車両価格の高さや EV から HEV への需要シフトなどを背景に、欧米を中心に EV 向けの投資需要が低迷している。（電気機械）
- 今年の夏は昨年ほど暑くなく、雨も多かったため、化粧品や夏物商品の需要がやや低調だった。（化学）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移している。法人企業景気予測調査（令和 8 年 7～9 月期調査）の従業員数判断 BSI は「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は高い状況にある。完全失業率は、前年を上回って推移している。

- 極端な人手不足感はないものの、法務や IT などの専門人材が不足している。待遇を手厚くして募集しているが、応募がない状況が続いている。（金属製品）
- 繁忙期には、グループホテルとの相互応援やスキマバイトを活用するほか、自動チェックインや清掃ロボットを導入し、人手不足に対応している。（宿泊）
- 土木関係学科卒の人材は取り合い状態で採用が難しいため、文系学部卒の人材も積極的に採用し始めた。（建設）
- 事業者都合離職者の増加により求職者数が高止まりしており、時間をかけて再就職先を探す動きがみられる。（公的機関）

■ 設備投資　「8 年度は前年度を上回る見込みとなっている」（全産業）「法人企業景気予測調査」令和 8 年 7～9 月期

○ 製造業では、化学などが前年度を下回っているものの、鉄鋼、情報通信機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

○ 非製造業では、金融・保険などが前年度を下回っているものの、電気・ガス・水道、不動産などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

➢ AI・データセンター需要の拡大を見据え、バックアップ電源設備向け電池の生産ラインを増強。（電気機械）
➢ 用地買収が進展し、新規路線の開業に向けた工事が本格化している。（運輸・郵便）

■ 企業収益　「8 年度は減益見込みとなっている」（全産業）「法人企業景気予測調査」令和 8 年 7～9 月期

○ 製造業では、電気機械などが増益となるものの、輸送用機械、生産用機械などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

○ 非製造業では、不動産、運輸・郵便など、ほとんどの業種で減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 住宅建設　「おおむね横ばいとなっている」

○ 新設住宅着工戸数でみると、建築物省エネ法等の改正に伴う駆け込み需要の反動により減少した前年と比べて、分譲マンションや貸家などが増加しているものの、おおむね横ばいとなっている。

■ 輸出　「前年を上回っている」

○ 管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、アジア向けの半導体等電子部品や非鉄金属などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

【その他の項目】

■ 企業の景況感　法人企業景気予測調査（令和 8 年 7～9 月期調査）の景況判断 BSI でみると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、8 年 10～12 月期では、大企業、中堅企業は「上昇」超、中小企業は「下降」超で推移する見通しとなっている。

■ 公共事業　前払金保証請負金額でみると、市町村などで増加していることから、前年を上回っている。

■ 金融　貸出金残高は、前年を上回っている。

■ 消費者物価　大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、食料などが上昇していることから、前年を上回っている。

■ 企業倒産　倒産件数は、前年を上回っている。

3. 各府県の総括判断

	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→	個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は横ばいの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
滋賀県	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	→	個人消費は緩やかに持ち直しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
京都府	緩やかに回復しつつある	**回復しつつある**	↗	個人消費は回復しつつある。生産活動は緩やかに回復している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
兵庫県	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→	個人消費は緩やかに持ち直しつつある。生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢はテンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。
奈良県	持ち直している	**持ち直している**	→	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
和歌山県	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→	個人消費は緩やかに持ち直しつつある。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【総括判断】「大阪経済は、緩やかに回復しつつある」

前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較	判断の要点
緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	**個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は横ばいの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。**

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある**	⇨
生産活動	一進一退の状況にある	**横ばいの状況にある**	⇨
雇用情勢	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	⇨
設備投資	8 年度は前年度を上回る見込みとなっている	**8 年度は前年度を上回る見込みとなっている**	⇨
企業収益	8 年度は減益見込みとなっている	**8 年度は減益見込みとなっている**	⇨
住宅建設	前年を下回っている	**おおむね横ばいとなっている**	⇨

【先行き】

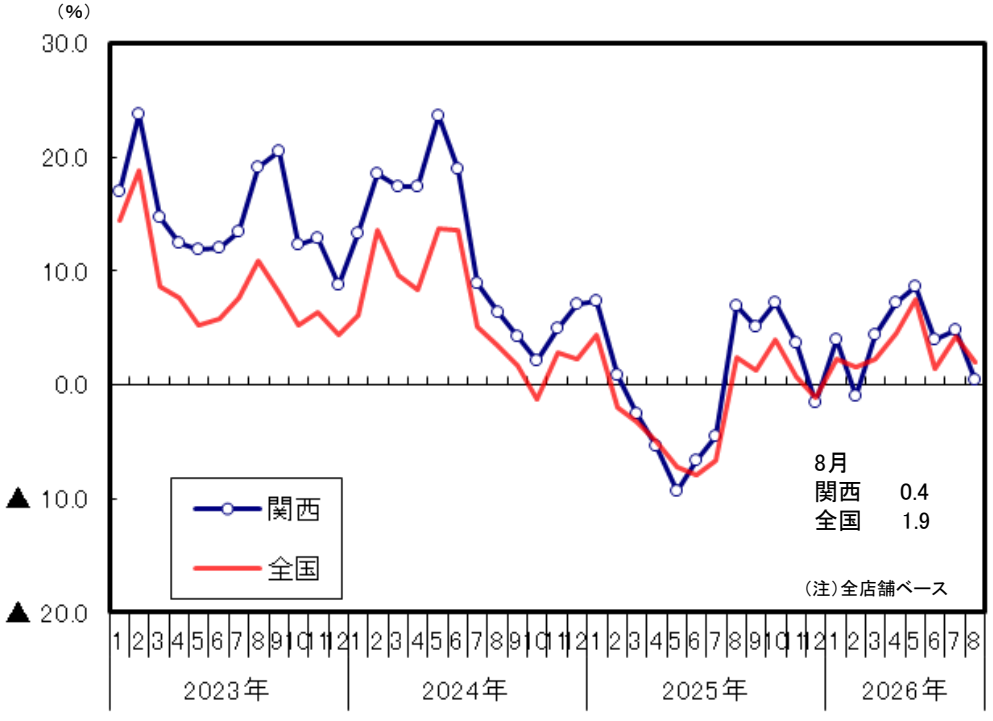
先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

管内経済情勢
資料編

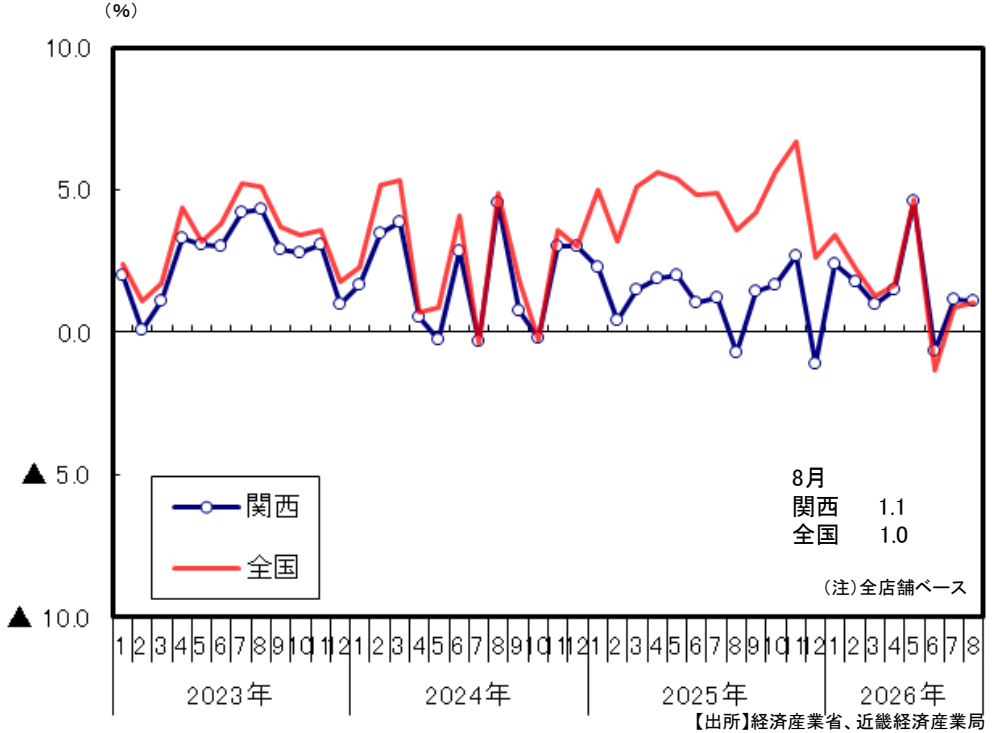
近 畿 財 務 局

個人消費　～一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある～

〔百貨店販売額（前年同月比）〕



〔スーパー販売額（前年同月比）〕



【出所】経済産業省、近畿経済産業局

百貨店販売は、円安や株高により高額商品の売上げが堅調に推移していることなどから、緩やかに持ち直しつつある。

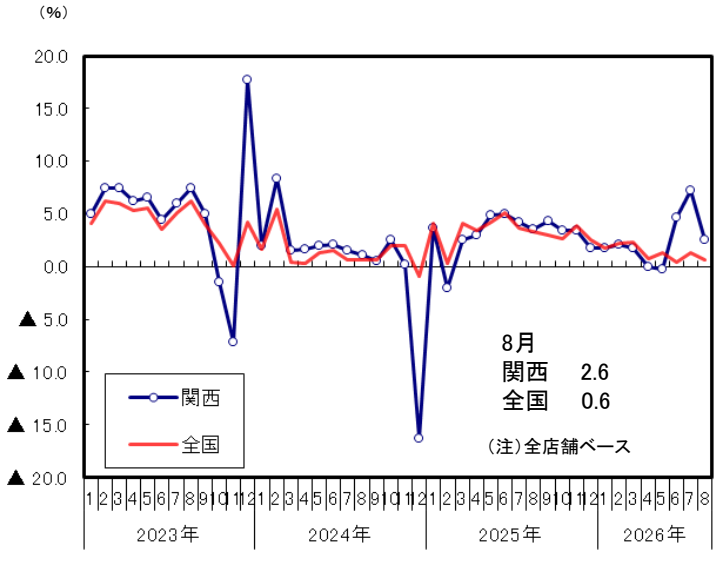
スーパー販売は、一部に節約志向がみられ、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

〔企業の声〕

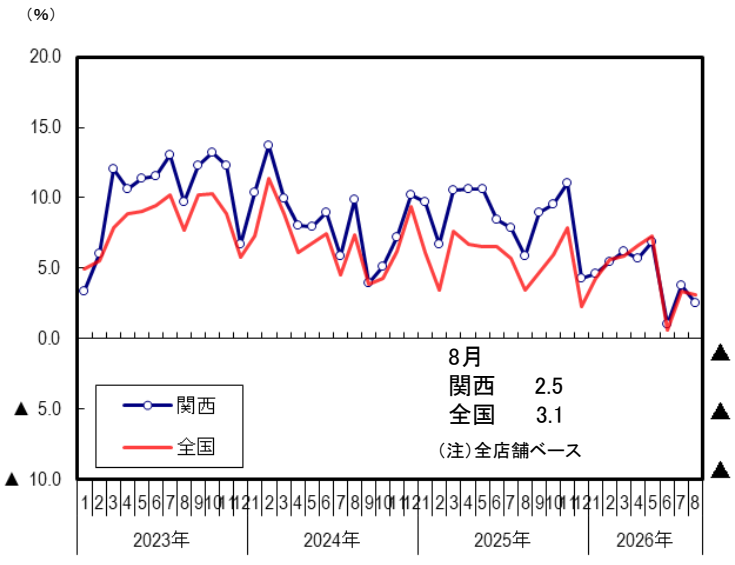
- 国内売上及び免税売上のいずれも前年を上回り、継続して好調である。国内売上は株高による富裕層の資産拡大、免税売上は円安による影響が大きく、ラグジュアリー商品を中心によく売れている。（百貨店）
- 一部の郊外店舗では、食料品等の普段使いで財布の紐が固くなっている印象があるものの、都市部の店舗では免税売上も国内売上も好調。外商販売も伸びている。（百貨店）
- 猛暑や降雨の影響もあり来店客数が減少していることに加え、消費者の節約志向から購入点数も少なくなっており、売上は減少傾向にある。（スーパー）

個人消費　～一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある～

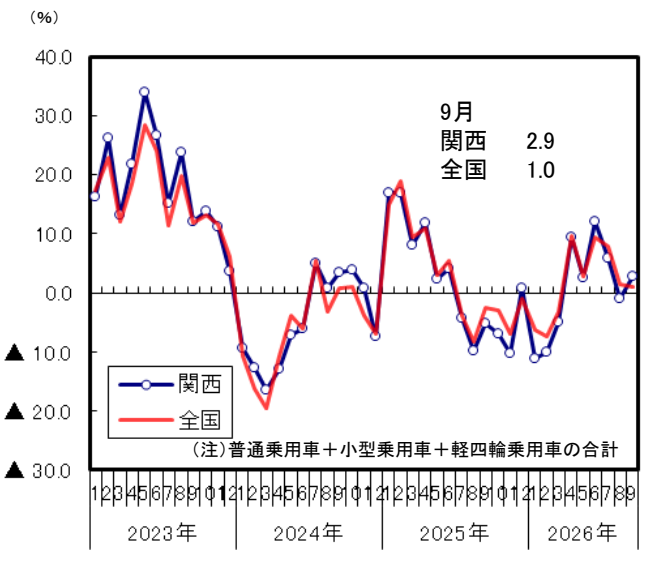
〔コンビニエンスストア販売額（前年同月比）〕



〔ドラッグストア販売額（前年同月比）〕



〔乗用車新車登録届出台数（前年同月比）〕



【出所】経済産業省、近畿経済産業局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

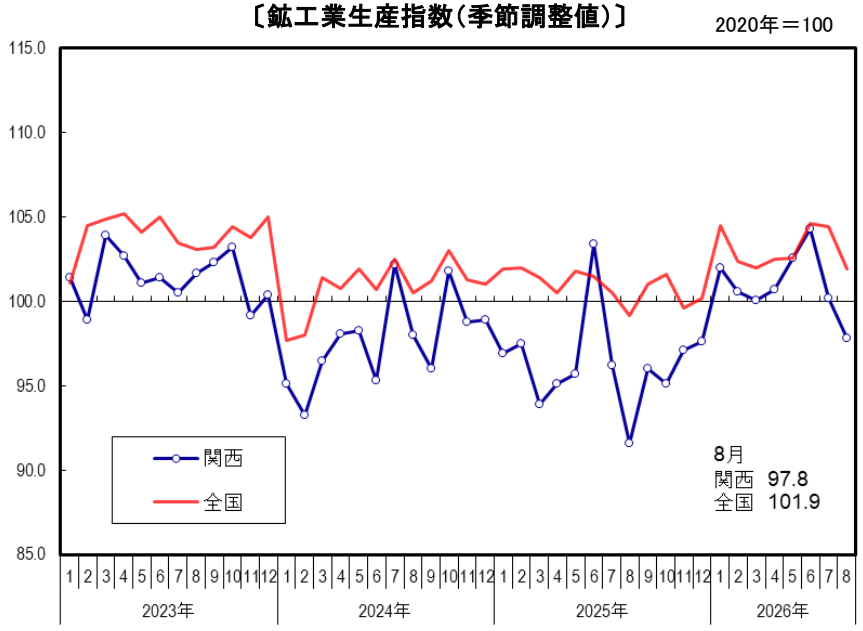
コンビニエンスストア販売は、一部で物価上昇の影響による客足の減少がみられ、回復のテンポが緩やかになっている。
ドラッグストア販売は、インバウンド需要の減少などにより、回復のテンポが緩やかになっている。
ホームセンター販売は、夏の季節性商品が好調だったことなどから、緩やかに持ち直しつつある。
家電販売は、エアコンなどが好調であり、持ち直している。
乗用車の新車登録届出台数は、一部に自然災害による影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
宿泊は、大阪・関西万博の反動減等により、弱含んでいる。

〔企業の声〕

- 節約志向から弁当などの日配品が伸びない一方、アニメやゲームといったIP（知的財産）コンテンツ商品には強い引き合いがあり、消費者のメリハリ消費を強く感じる。（コンビニエンスストア）
- 中国人客が減少するなか、その減少分を単価の高い商品の販売などで補おうとしているが補い切れていない。（ドラッグストア）
- 2027年度の省エネ基準厳格化を見据えた買い替え需要が底堅く、気温の上昇とも重なって、エアコン販売が好調だった。一部では、リビング用に加え、他の居室用分を含めた複数購入の動きもみられた。（家電量販店）
- 7月下旬の令和8年熊本地震によりメーカーが生産を一時停止したことや、その他の風水害などによる交通網への影響を受けて、一部で納期に遅れが生じた。（自動車販売）
- 海外客については、渡航自粛による中国人客の減少を他地域からの集客では補い切れず減少している。国内客についても、昨年は万博を機に関西を旅行した者が、今年は関西以外を選んでいる傾向があり減少している。（宿泊）
- インバウンド客や万博需要を取り込んでいた繁華街の店舗では、売上げが大きく前年割れしており、万博の反動減を感じる。（飲食）

生産活動　～横ばいの状況にある～

〔鉱工業生産指数(季節調整値)〕



【出所】経済産業省、近畿経済産業局

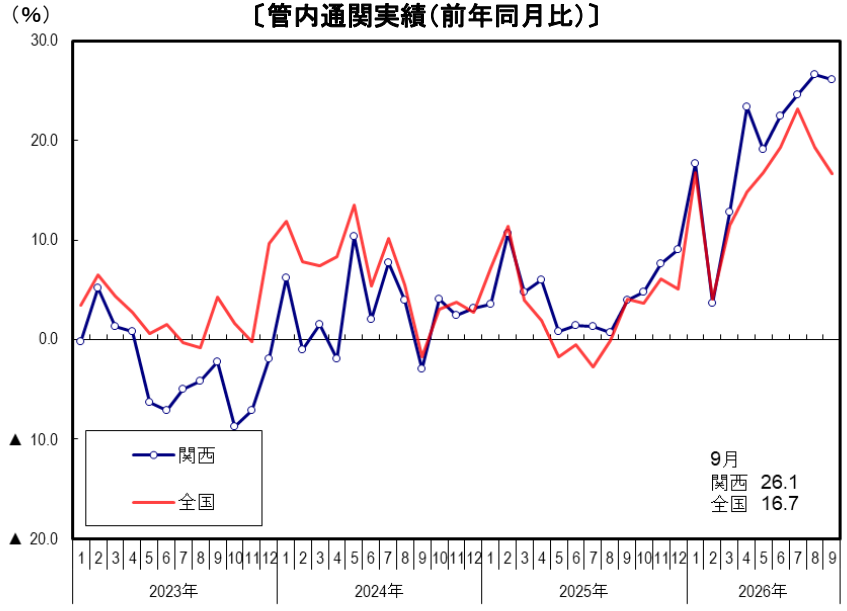
鉱工業指数(生産)でみると、生産用機械などが上昇しているものの、電気・情報通信機械などが低下しており、生産活動は横ばいの状況にある。

〔企業の声〕

- 世界的にデータセンター需要が拡大しており、特に北米からの受注が好調。(生産用機械)
- 人手不足や人件費の上昇を背景に、物流施設等を自動化・効率化する製品需要が好調。(汎用機械)
- 車両価格の高さやEVからHEVへの需要シフトなどを背景に、欧米を中心にEV向けの投資需要が低迷している。(電気機械)
- 今年の夏は昨年ほど暑くなく、雨も多かったため、化粧品や夏物商品の需要がやや低調だった。(化学)

輸出　～前年を上回っている～

〔管内通関実績(前年同月比)〕

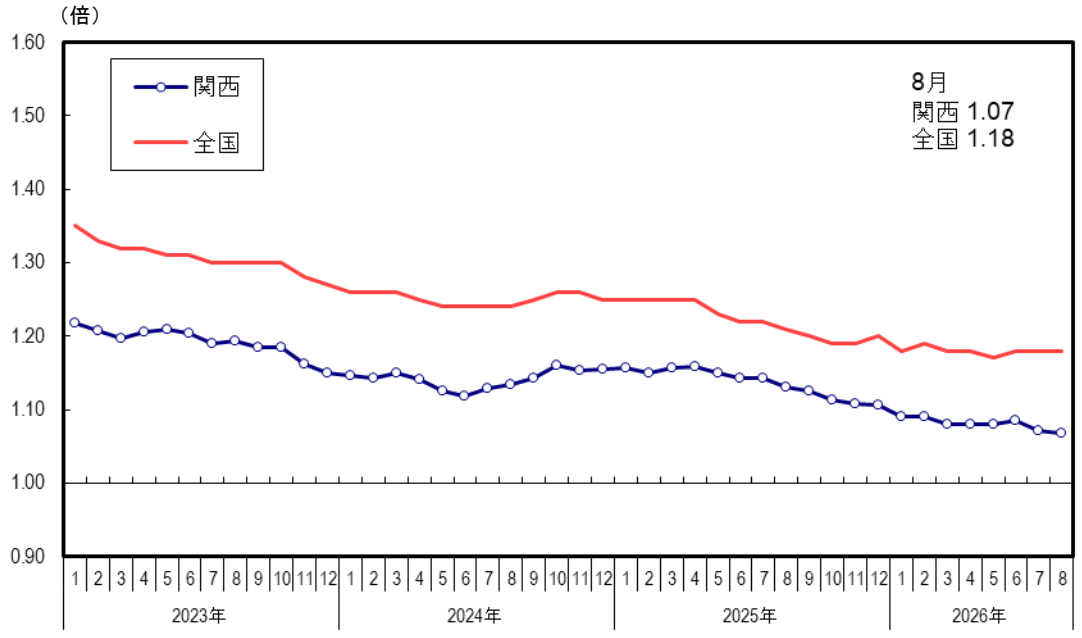


【出所】財務省、大阪税関

管内通関実績(円ベース)でみると、輸出は、アジア向けの半導体等電子部品や非鉄金属などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

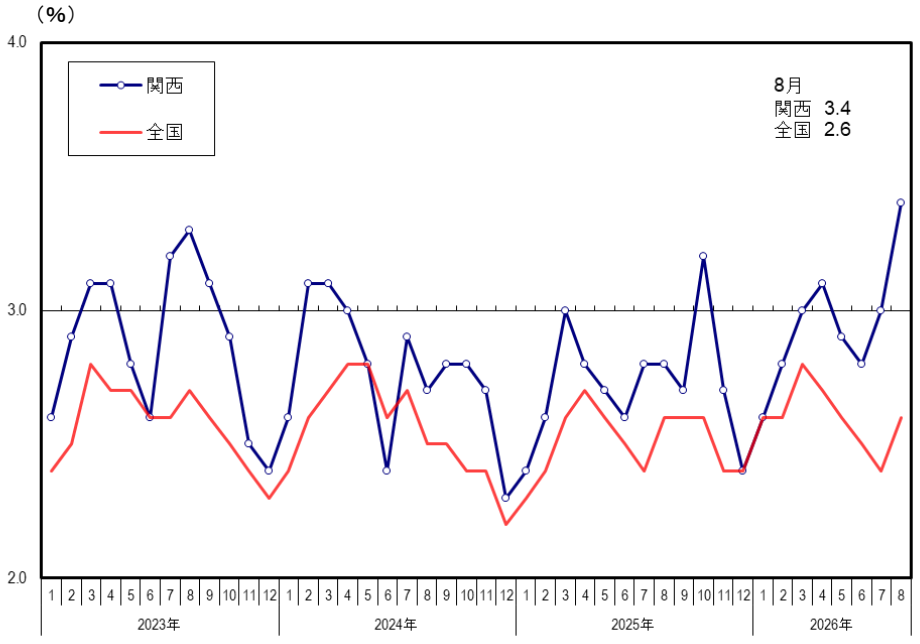
雇用　～緩やかに持ち直している～

〔有効求人倍率（季節調整値）〕



【出所】厚生労働省

〔完全失業率（原数値）〕



【出所】総務省

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移している。法人企業景気予測調査（令和8年7~9月期調査）の従業員数判断BSIは「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は高い状況にある。完全失業率は前年を上回って推移している。

〔企業の声〕

- 極端な人手不足感はないものの、法務やITなどの専門人材が不足している。待遇を手厚くして募集しているが、応募がない状況が続いている。（金属製品）
- 繁忙期には、グループホテルとの相互応援やスキマバイトを活用するほか、自動チェックインや清掃ロボットを導入し、人手不足に対応している。（宿泊）
- 土木関係学科卒の人材は取り合い状態で採用が難しいため、文系学部卒の人材も積極的に採用し始めた。（建設）
- 事業者都合離職者の増加により求職者数が高止まりしており、時間をかけて再就職先を探す動きがみられる。（公的機関）